

総 説

1 沿革・地勢

現在の府中市は、昭和 29(1954)年 3 月、芦品郡府中町、岩谷村など周辺6カ町村が合併して市制を施行「府中市」が誕生。その後、芦品郡河佐村、御調郡諸田村及び御調町三郎丸の一部を編入、また、昭和 50(1975)年 2 月、芦品郡協和村、平成 16(2004)年 4 月に甲奴郡上下町を編入合併し、現在の市域となっています。

本市は、広島県の東南部内陸地帯に位置し、面積の大半が山地で、三方を山で囲まれ盆地を形成し、西北部から東南部にかけて、県内三大河川の一つである芦田川が縦貫しています。その流域の両側には平野が広がり、美しい山並みを背景に、住宅、商店、工場などが立ち並び、市街地が展開されています。山系は、神石及び世羅方面から伸びた中国山脈の余脈で、標高 400m~770mに及ぶ小規模連山が市街地の西・南・北部を囲んでいます。

河川は、芦田川水系に属しており、源を三原市大和町の溪谷に発し、世羅盆地を貫流し本市に流入、さらに福山市を経て瀬戸内海に注いでいます。上下町は、分水嶺の町として知られており、福山・三次両市の間の高地で陰陽の分水界をかたち作っています。

市街地では、律令時代の頃、備後国府が置かれていたと伝えられ、数多くの遺構・遺物が出土し、現在備後国府の解明に向けて、発掘作業が続けられています。幕府の天領として栄えた上下地区の白壁の町並みや銀山街道などは貴重な歴史的遺産です。

府中市は田園都市として発足しましたが、伝統産業の育成に努め「府中タンス」、「鑄造品」、「備後かすり」、「府中みそ」などは時代の変化に対応しながら地場産業として発達しました。その後、「非鉄金属ダイカスト製品」、「建設・工作機械」、「施盤用チャック」などの近代産業はたゆまない企業努力により驚異的な発展を遂げ、府中市の上場企業では“リョービ”、“北川鉄工所”、“ヤスハラケミカル”、“北川精機”があり、全国はもとより世界中に販路を拡大し、飛躍を続けています。

しかし、工業の順調な発展に伴い、市街地内の用地の狭さや公害問題などが生じてきました。そこで、住・工分離を図り快適な生活環境の確保とともに、工業を一層発展させる目的で、昭和 50(1975)年5月に、市の中心より北東の山間部に「本山工業団地」を造成しました。その後さらに工業用地の不足が深刻になったため、平成 3(1991)年9月には「本山工業団地」に隣接して「鶉飼工業団地」を造成しました。また、地場産業の高度化と人口の安住促進のため、平成 13(2001)年4月には「鶉飼工業団地」に隣接して、「桜が丘団地」を造成し分譲を進めています。

これらの住宅・工業団地の造成によって、生活環境や操業環境の向上といった所期の目的を達成することができた半面、市街地の無秩序な拡散や、商業の国道沿いへの転出によって中心市街地の空洞化が進むなど、解決すべき課題も残されています。

近年では、府中市のソウルフードとして親しまれてきたお好み焼きで、地域活性化を目指そうと市内外のお好み焼き店 38 店が加盟する「備後府中焼きを広める会」を結成、平成 21(2009)年 4 月に愛Bリーグ(B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会)に加盟し、平成 22(2010)年 神奈川県厚木市で開催された第 5 回B-1 グランプリに初出場し、平成 23(2011)年には、兵庫県姫路市で開催された第 6 回B-1 グランプリに出場しました。平成 22(2010)年第 1 回広島てっぱんグランプリで優勝するなど県内外の出展要請に応え活発な活動が行われ、全国にその名を広めています。

文化面では、市立図書館は平成 4(1992)年5月に開館し、中心市街地の地域の景観にマッチした外観で、最新の技術を結集した近代図書館として市民に親しまれています。さらに平成 16(2004)年4月に保健福祉総合センター「リ・フレ」が開館し、子どもから高齢者まで市民一人ひとりが、毎日をもっと楽しく健康で安心して暮らすため、体

かづくりと生きがいがいづくりのできる交流館が誕生しました。また、生涯学習センター「TAMスクエア」が、学習機会の提供、学習情報の発信、学習相談、地区公民館の支援・指導などを通して、市民の生涯にわたって行う学習活動を支援する拠点として、平成 17(2005)年4月に開館し、多くの市民に利用されています。

子どもたちが「遊び」「楽しみ」「考え」「創り」「学ぶ」施設、“府中市こどもの国 POM(ポム)”の中核になる児童会館は、プラネタリウム室、天文台ドーム及び多目的ホール等を備え、さらに、まわりには桜つつみ、水辺のプラザ、ラジコンカーのサーキット場も整備され、多くの市民の憩いの場となっています。

教育面では、「元気いっぱいの子」を小中一貫教育推進プランの目標に掲げ、先駆的な教育を実践するために、平成 20(2008)年4月に「府中学園」が、平成 22(2010)年10月に「府中明郷学園」が開校しました。現在、4つの学園(中学校区)ごとに「小中一貫教育研究推進協議会」等を立ちあげ、それぞれの学園の実情にあわせた取組みを進めるとともに、教育内容の充実に取り組んでいます。

子育て面では、病後児保育、延長保育などの特別保育の充実を図るため、平成 21(2009)年4月に「広谷保育所」が、平成 22(2010)年10月に「国府保育所」が子育て支援センターを併設して開所し、未就学児の子育て相談にも対応しています。

医療面では、府中市市民病院とJA府中総合病院が平成 24(2012)年4月から地方独立行政法人府中市病院機構が運営する府中市北市民病院と府中市市民病院となりスタートします。この2病院は、これから府中市が目指す医療を担う病院として、地域医療再生の中核となる役割を果たします。

交通面では、都市計画決定をした府中新市線や府中南北道路(府中松永線・新山府中線)の整備が進められています。特に府中南北道路は、扇橋周辺の安全確保や渋滞解消のほか、山陽自動車道福山西ICとを連絡する主要幹線の機能を併せ持ち、その早期完成が望まれているところです。

平成 16(2004)年4月の府中市と上下町の合併による「府中市・上下町まちづくり構想」あるいは「府中市・上下町合併建設計画」に基づき、合併後の府中市の将来像やまちづくりの基本理念及び基本方向、合併による効果等について検証しながら計画を進めており、合併後の「府中市総合計画」の策定を進め、ものづくりの伝統を活かした産業が活発で、豊かな自然や歴史に囲まれ、住民が元気にのびのび暮らせるまちをイメージし、“リ・デザイン 未来を拓くものづくり都市・府中”の実現に向けて着実な一歩を踏み出しています。

2 位置

本市は、広島県の東南部内陸地帯に位置し、福山市へ 18.5km、三原市へ 40km、県北の中心都市・三次市へ 65kmの地点にあり、北緯34度34分 06 秒、東経133度14分11秒、海拔 27m(府中市役所)にあり、一帯は盆地を形成しています。

市域は、東西 17.13km、南北 25.54km、面積 195.71 km²、東南は福山市、西は尾道市及び世羅郡世羅町、北は三次市及び神石郡神石高原町に隣接しています。

市街地を中心に主要な道路が東西南北へ放射状に走り、道路網を形成しています。国道486号、愛称「山陽ふるさと街道」が、芦田川に並行して市街地を東西に貫通し、東は国道182号を経て山陽自動車道及び国道2号線に連結し、西は、尾道市において国道184号結ばれています。現在、尾道松江線が建設中です。北に延びる府中上下線は上下町において国道432号と接続し、中国自動車道及び山陰地方に通じています。南に向かい松永湾に通じる府中松永線などの県道が、近隣市町を結ぶ動脈となっています。

鉄道は、JR福塩線があり、通勤・通学などに利用され、安全確実なローカル線として、古くから親しまれています。この福塩線は、福山市で山陽新幹線・山陽本線と結ばれ、三次市において芸備線・三江線と連絡し、陰陽連絡鉄道としての役割も果たしています。